

足柄上病院 整形外科専門医研修カリキュラム

研修目的	<p>整形外科は筋骨格、脊椎脊髄神経など幅広い疾患を対象としている。これらの疾患に迅速かつ適切に対応し治療するために必要な知識、技術、患者接遇能力などを総合的に身につけることを目的とする。日本整形外科学会専門医資格取得を目指す。</p>
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 整形外科患者の問診、診察、診断および基本的治療法の習得 2 救急外来における外傷患者の初期診断治療法の習得 3 骨折、脱臼に対する徒手整復固定法技術の獲得、観血的治療の適応判断 4 脊椎外科の診断基本技術と治療方針の決定 5 関節外科疾患の診断と治療法の知識獲得 6 小児先天性疾患の診察技術と治療方針決定 7 関節リウマチに対する薬物療法および手術療法に関する知識と治療経験 8 骨軟部腫瘍に関する診断治療経験 9 患者、家族に対するわかりやすい説明を行い治療に協力が得られる 10 院内他部門との良好な人間関係を構築し患者治療を滞りなく進められる 11 学会発表、論文作成 12 整形外科専門医試験を受験し資格を得る
年度別到達目標	<p>1 年目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運動器疾患の理解に必要な生理学、病態生態学を修得する。 体幹 四肢の解剖を修得。正常組織像と各種疾患での病理組織像を述べられる 骨折の治癒過程 神経変性と再生 運動器のバイオメカニクスの概略を述べられる 2 正確な診断を行うための基本的手技を修得する。 関節の視診触診計測法 脊椎の身体所見の把握 神経学的所見の取り方 関節可動域測定 徒手筋力測定法 単純レントゲン像の読み方・表現法 各種造影検査（関節造影、脊髄造影）の適応と実施 MRI・CT検査の読影 3 入院整形外科患者の初期対応 救急外来における整形外科的外傷の初期対応法 介達牽引または直達牽引法の実践合併症予防 ギブス管理
	<p>2 年目</p> <p>1 年目の到達目標をクリアした場合、積極的、主体的に患者治療に参加し学会発表論文作成を課題とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的知識を充実させる 骨折治療法の理解（各種内固定法、材料の比較 遷延治癒・偽関節など） 慢性疾患の病理 病期分類と対応法（例：変形性膝関節症） 2 補助診断法の理解と実践 電気生理学的検査（神経伝導速度、針筋電図） 超音波検査 3 外来診療技術の向上 診断の迅速化 適切かつ十分な説明 リハビリテーション処方箋の充実 外来手術で経験すべき疾患：ばね指 アキレス腱経皮縫合 脂肪腫など 4 手術的治療の執刀者としての経験 手術記録作成 退院サマリー早期作成 大腿骨頸部骨折 上肢・下肢骨折 手根管開放術
	<p>3 年目</p> <p>2年目に培った診療技術をさらにステップアップさせ、経験していない疾患を積極的に受け持つとともに自らが将来サブスペシャリティとしたい分野を模索すべく活動する時期にあたる。</p> <p>骨軟部腫瘍の取扱と病理検査所見の把握 小児疾患の診方と専門病院への転送基準を把握する 関節リウマチおよび関連疾患の知識と治療法の実践（生物学製剤を含む） 手の外傷の特徴を理解し神経・腱損傷の適切な処置ができる スポーツ外傷・障害の特徴を理解し初期対応を行う 急性期慢性期の骨、関節感染症を評価し適切な処置を行う</p> <p>経験すべき手術 膝関節鏡 腰椎椎間板ヘルニア 上腕骨顆上骨折 開放骨折 膝蓋骨骨折 肘頭骨折 腱縫合</p>

年度別到達目標	4年目	<p>専門医試験受験へ向け知識、技術を再確認、整理する時期である。 コメディカルとの良好な人間関係を築く 医療安全の重要性を理解する 義士装具判定医講習会参加などにより装具類の処方装着に精通する 患者および家族の社会背景を理解したうえで良好な関係を構築できる 感染防止へむけた取り組みに積極的に参加する 経験すべき手術 人工膝（股）関節置換術 橈骨遠位端骨折（内固定/創外固定） 腰椎椎弓（部分）切除術 良性骨腫瘍掻爬骨移植</p>
	全年次を通して	<p>毎朝行われるカンファレンス（月：リハビリ 火：術前 木：金：術後）で受持ち医として患者の状態評価今後の方針をプレゼンテーションを行う。 病棟で8人程度の受持ち患者の診察、検査、手術、処置に従事する 指導医同席または助言のもとで患者家族への治療方針の説明を行う 定期的な研修目標到達度チェックを行う 日本整形外科学会発行の整形外科研修記録により自己チェックを行う 指導医および上席医により目標到達度を評価してもらう。（毎月1回以上） 日本整形外科学会主催の総会、基礎学術集会、骨軟部腫瘍学会、スポーツ学会、骨折治療学会、日本脊椎脊髄病学会などに少なくとも1年1回参加する。</p>
指導体制	<p>研修指導 日本整形外科学会専門医 日本脊椎脊髄病学会指導医 日本リウマチ学会専門医 日本体育協会スポーツ専門医 専門医門分野に詳しい指導医による助言、直接の指導がある 指導に関しては上述のカンファレンス チェック項目による目標達成度の確認 学会発表 論文執筆時には担当指導医からマンツーマンの指導が受けられる</p>	
研修内容	<p>1 カンファレンス、抄読会への参加（既述） 2 外来研修 整形外科外来：原則週3回（1回初診患者担当 2回再診患者担当） 外来検査（筋電図検査、神経根造影など） 3 病棟研修 入院受持ち患者の診察 診療録記載 退院記録記入 カンファレンスで症例提示 手術室での治療に参加（助手、術者） 術前後の患者管理 他科への診察依頼など 4 院内勉強会の参加 院内CPC 院内医療安全講習会 緩和ケア 院内感染予防など 5 横浜市立大学整形外科関連主催学術講演会参加（年10回程度） 6 日本整形外科学会主催学会参加 7 上記6を含む国内整形外科主要学会へ演題を発表し論文にまとめる</p>	
研修評価方法	<p>部長および整形外科専門医による評価を随時行う。また自己評価により経験が不足していたり偏っている分野に関しては研修の追加修正を行うことがある。</p>	